

# 29G-pm12

次世代を担う若者への薬学教育の取り組み (II)

○飯村 菜穂子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>新潟薬大薬)

【目的】新潟薬科大学薬学部では、次世代を担う若者への理数教育の拡充施策の一環として文部科学省所管の独立行政法人科学技術振興機構(JST)が推進する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト：SPP(講座型学習活動[プランB])」の22年度課題に昨年に引き続き2年連続で選定された。本プロジェクトは、中学校、高等学校と大学との連携により、児童生徒の科学技術、理科に関する興味、関心と知的探求心等を育成することを目的に実施された。

【講座計画】今年度講座タイトルは、『ヒトの生命を支える科学と先端医療を支える薬学を学ぼう』と題し、中学・高校理科を基礎に薬学領域における特に「医療薬学」、「臨床薬学」を中心に体験型学習スタイルで学ぶ。本講座では、薬学に应用される科学について新潟薬科大学を会場に講義・実験を通じて学んだ後、その内容が実際の医療にどのように利用、応用されているかを体験するため介護老人保健施設、老人ホーム併設病院、保険薬局、OTC薬局での実習を行い学習させる。

【結果・考察】4高等学校、2中学校との連携により講座開講した。講義内容や薬学に対する興味などについて毎回アンケートを行ったところ、受講回数を重ねることで確実に薬学に対する興味が深まり、中でも実際の医療現場における体験学習は貴重且つ有意義であり、薬剤師という職業への憧れも高まるなどの感想をもつ生徒が増えた。また本講座を通じて、薬学への進学を希望する学生も多くなり、高校3年生については、講座終了後、本校へ受験する学生も数多く見られ、本事業が児童生徒に与えた影響は大きく、特に自然科学や薬学に関する勉学意欲を高める効果をもたらしたといえる。